

季刊 地域と農政を結ぶ

vol.
25
令和5年4月



「きいろい笑顔」 撮影者：佐藤 姫依 さん

CONTENTS

- 令和5年度地方参事官室担当の紹介
- 「みどりの食料システム戦略」生産現場での取組事例紹介
- 特集 人・農地プランから地域計画へ
- 統計の部屋 令和3年市町村別農業産出額（推計）
- トピックス 「茶育」新プロジェクト
春の農作業安全確認運動
令和4年度輸出に取り組む優良事業者
2022年度全国推奨観光土産品審査会
ノウフク・アワード2022

令和5年度地方参事官室担当者を紹介します



地方参事官
(支局長)
秋山憲孝

総括農政推進官
(支局長代理)
花村幸伸

〈企画担当〉



近藤

小野田

加藤

伊藤

みなさまのところへお伺いします。

農政に関する意見・要望・質問をお寄せください。

〈中・西部地域担当〉



海野

鈴木

齊藤

青木

丹羽

高尾

久保

〈東部・伊豆地域担当〉



塚本

鈴木

村松

八木

兼子

赤堀

▶表紙

令和4年度 農や里山のいとなみと鉄
道・路線バス フォトコンテスト
U18特別賞受賞作品

生産現場での取組事例紹介



関東農政局では、有機栽培や減化学肥料、減化学農薬など「みどりの食料システム戦略」で拡大が期待される生産現場での取組事例について、ホームページで紹介しています。
ここでは、ホームページに掲載されている静岡県内の取組事例を紹介します。

茶園での堆肥利用

富士山麓堆肥利用促進協議会
(富士宮市・富士市・沼津市・長泉町)

■取組の特徴ときっかけ

富士山麓地域は県下最大の酪農地域であり、経営体の規模拡大に伴い堆肥処理が大きな課題となっている。

■取組のメリット

昨今の肥料価格の高騰は、茶生産者の経営を圧迫しており、茶生産者の堆肥活用を促進し、畜産堆肥の地域内流通を図ることで、畜産・茶農家の連携による地域農業の発展と環境負荷低減に取り組む。

■課題になっていること

堆肥ストック場所の確保、効率的で省力的な茶園への投入方法、傾斜面でも安全な散布方法、堆肥のペレット化（含水率50～60%を20%）、畜産農家と茶農家の調整、有機JAS認証に対応した堆肥生産、肥料高騰対策としての堆肥の利活用方法の検討など。



堆肥散布機

天敵利用による化学農薬使用の低減

温室メロン グリーンな栽培普及協議会
(磐田市)

■取組の特徴ときっかけ

温室メロンの害虫対策の省力化を図るため、スリップス（アザミウマ）の天敵資材（スワルスキー、リモニカ）による捕食と粘着捕虫シートの併用駆除に取り組み、化学農薬使用回数の減少と農薬使用量の低減に結びついた。化学農薬では効果があまりない上に、使用しているうちに耐性ができてしまい苦労していたところ、農薬資材メーカーから天敵資材のスワルスキーを紹介された。

■取組のメリット

メロンの品質が向上。スワルスキー等の導入作業は受粉前の1回のみで収穫まで使うので、害虫駆除に係る作業も軽減。

■苦労している点

スワルスキー等は乾燥に弱いため、温室内の環境への気配り。また、病気が出た場合の薬剤選び。



スワルスキー



有機栽培

山平園（富士市）

■取組の特徴

茶園はすべて有機栽培。菜種粕、フィッシュソリュブル（魚類の加工時に出的煮汁の脂肪分を除き濃縮したもの）、草堆肥など自然に優しい肥料のみ使用。微生物や虫が共生する生きた土づくりを目指す「土が喜び笑う農法」に取り組む。

■取組のきっかけ

就農当初から、健康や食の安全に関心があった。農薬を使用しない安心・安全な商品を販売したいという思いから、2003年、無農薬・無化学肥料の栽培を開始。2021年に有機JAS認証を取得。

■取組のメリット

有機商品は消費者ニーズがあり、販売価格が上昇した。認証マークがあることで、消費者にも認知されやすい。輸出向け商品にも有機認証は強みとなる。



これまで、地域での話し合いにより、人・農地プランを作成・実行していただけてきましたが、今後、高齢化や人口減少の本格化により、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される中、農地の集約化等に向けた取組を加速化することが喫緊の課題です。

このため、①人・農地プランを法定化し、地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」を定め、②それを実現すべく、地域内外からの農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めるよう、農業経営基盤強化促進法等の改正法が今年4月1日に施行されました。

地域計画の策定

基本構想を作成している市町村(同意市町村)は、地域における農業の将来の在り方等について、協議の場を設け、協議の結果を踏まえ、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るため、「地域計画」を策定します。

人・農地プラン
(地域農業の将来の在り方)



地域計画
(地域農業の将来の在り方 + 目標地図)

地域で農業の将来の在り方等を協議

同意市町村は、自然的経済的社会的諸条件を考慮した区域ごとに、農業者・農業委員会・農地バンク・JA・土地改良区等の関係者による協議の場を設置し、次を話し合い

- ① 区域における農業の将来の在り方
- ② 区域における農業上の利用が行われる農用地等の区域(※)
- ③ その他農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項



※協議の中で、(緑)農業上の利用が行われる区域と(茶)保全等を進める区域に整理
 緑の区域：農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画へ
 茶の区域：農山漁村活性化法に基づく活性化計画へ

同意市町村は、協議の結果を公表

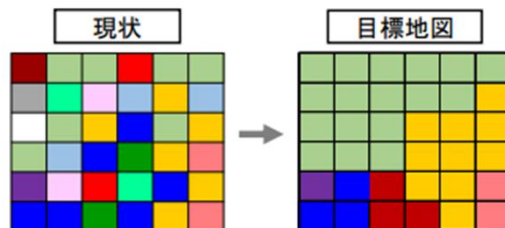
同意市町村が地域計画を策定

- 同意市町村は、次を定めた地域計画(案)を作成
 - ① 地域計画の区域
 - ② ①の区域における農業の将来の在り方
 - ③ ②に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標等

- 同意市町村は、③の目標として、農業を担う者ごとに利用する農用地等を定め、これを地図に表示(「目標地図」)

- 目標地図の素案は、農業委員会が市町村の求めを受けて作成(情勢の推移に応じ、随時変更が可能)

※目標地図のイメージ



農業委員会・農地バンク・JA・土地改良区等の意見を聴取等

同意市町村は、地域計画を公告



地域計画は、令和7年3月末までに策定することとされています。農地を次の世代に着実に引き継いでいくため、幅広い意見を取り入れながら、地域の関係者が一体となって話し合うようお願いいたします。

統計の部屋

「令和3年市町村別農業産出額（推計）」を公表しました

農林水産省では、令和5年3月、「令和3年市町村別農業産出額」（農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額）を公表しました。

この統計結果は、生産農業所得統計における都道府県別農業産出額を農林業センサス及び作物統計を用いて按分し、市町村別の農業産出額（推計）として毎年提供しています。

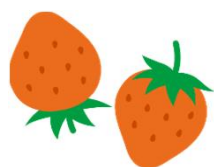
静岡県内市町別では、浜松市が507億円（県計に占める割合24.4%）で最も多く、全国第7位となっています。

令和3年市町村別農業産出額（推計）の上位部門 （農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果）

市町村	農 業 産出額	1 位部門		2 位部門	
		部門	産出額	部門	産出額
静 岡 市	1,579	野菜	618	果実	425
浜 松 市	5,069	果実	1,606	野菜	1,271
沼 津 市	614	果実	227	野菜	129
熱 海 市	21	果実	16	野菜	4
三 島 市	472	野菜	261	豚	73
富 士 宮 市	2,546	鶏卵	1,491	乳用牛	470
伊 東 市	101	果実	36	その他畜産物	26
島 田 市	731	工芸農作物	253	加工農産物	208
富 士 市	727	野菜	125	工芸農作物	92
磐 田 市	871	野菜	410	米	189
焼 津 市	355	野菜	147	米	96
掛 川 市	1,416	野菜	400	鶏卵	240
藤 枝 市	421	野菜	129	果実	79
御 殿 場 市	234	米	82	鶏卵	65
袋 井 市	744	野菜	309	米	144
下 田 市	31	その他畜産物	13	野菜	9
裾 野 市	62	野菜	21	米	14
湖 西 市	847	豚	165	野菜	157

市町村	農 業 産出額	1 位部門		2 位部門	
		部門	産出額	部門	産出額
伊 豆 市	188	野菜	64	米	41
御 前 崎 市	460	野菜	241	肉用牛	42
菊 川 市	613	野菜	167	工芸農作物	164
伊 豆 の 国 市	466	野菜	335	米	39
牧 之 原 市	989	野菜	313	工芸農作物	265
東 伊 豆 町	81	果実	34	野菜	33
河 津 町	44	果実	16	野菜	15
南 伊 豆 町	75	花き	46	野菜	19
松 崎 町	13	米	6	果実	5
西 伊 豆 町	9	米	1	野菜	1
函 南 町	263	野菜	99	乳用牛	83
清 水 町	16	野菜	10	米	5
長 泉 町	133	肉用牛	54	野菜	43
小 山 町	78	米	36	野菜	30
吉 田 町	108	野菜	62	米	27
川 根 本 町	73	工芸農作物	34	加工農産物	28
森 町	303	野菜	149	米	42

単位：1,000万円



詳細なデータを、農林水産省HPに掲載していますので、ご覧ください。



子どもにお茶の魅力を伝える「茶育」の新プロジェクト始動!



農林水産省は、子どもの頃から茶に親しむ習慣を育むために、学校教育の場で茶を活用した食育『茶育』を推進しています。

茶育に取り組む茶業関係者と茶育の内容等を学校関係者に共有することでマッチングを図る「茶業関係者×農林水産省『茶育』プロジェクト」を1月に開始しました。

小・中学校において、日本茶に関する各種出前授業、茶の植樹・摘採、茶製造工場見学等の茶育の取組が可能な茶業関係者を全国から募集しました。

応募のあった茶業関係者の情報はリスト化して農林水産省のHPに掲載するとともに、学校関係者向けに情報提供を行っています。

※茶育に取り組んでいただける茶業関係者を引き続き募集しています。応募いただいた内容は、随時、取組の一覧に追加されます。



令和5年春の農作業安全確認運動

農林水産省では、農繁期の春(3～5月)と秋(9～10月)に農作業事故の防止に向けた運動を実施しています。

令和3年の農作業事故死亡者数242人のうち、高齢者が8割を占め、要因別にみると「農業機械作業に係る事故」が約7割、そのうち「機械の転落・転倒」が最大の割合(約5割)を占めていることから、今年は農業者への声かけ運動や研修を通じた転落・転倒対策の徹底を進めています。

＜令和5年春のテーマ＞

「徹底しよう! 農業機械の転落・転倒対策」

【事故防止対策】ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践

【被害軽減対策】シートベルトとヘルメットの着用
安全フレーム付きトラクターの利用



令和5年ステッカー



橋を渡って左折するときは、速度を落として走行してね。
あの田んぼに行くときは、南側の道は狭小だから、
北側から回ってね。

【危険箇所を明確にして、危険回避行動を具体的に】

シートベルトとヘルメットを忘れないでね。
【実践しやすい被害軽減対策を】

高齢農業者に確実にメッセージが届くように、**家族や知人の方から声かけ**をお願いいたします。

令和4年度 輸出に取り組む優良事業者表彰



農林水産大臣賞 丸善製茶 株式会社 (静岡市)

茶の集積地モロッコを活用し、日本茶を世界に届ける！

抹茶(碾茶)
煎茶(荒茶)



<取組内容>

- 2018年、モロッコに合併企業「Maruzen Tea Morocco」を設立し、2019年から製茶工場の操業を開始しました。日本から荒茶・碾茶を届け、最終加工・袋詰め・缶詰めを現地で行い、世界へお茶を届けています。
- 有機JAS認証のほか国際的な有機認証機関であるエコサートの認証を取得し、茶の輸入規制が厳しい欧米へ有機茶を届ける体制を整えました。



種類ごとに包装されたお茶

2022年度(第63回)全国推奨観光土産品審査会



全国各地の優れた日本のお土産品を国内外に知らしめ、観光土産品の育成、発掘・振興を図るため、日本商工会議所と全国観光土産品連盟が毎年実施しています。優れた商品は「全国推奨観光土産品」(推奨品)として、2年間認定されます。



農林水産大臣賞

<食品部門>

ちょうじゅう

株式会社 鈴木長十商店 (森町)

「至福 極の茶箱」

県内生産者のお茶を集めた同社のブランド「静岡 茶匠の逸品」50種以上の中から、茶師が選んだ18種類の詰め合わせで、桐製ミニ茶箱と緑色の風呂敷で包んだ商品です。

地域の資源や素材を生かすとともに、インバウンド(訪日客)向けにデザインされたギフト商品に仕立てた点などが評価されました。

ノウフク・アワード2022



優秀賞 株式会社 サンファーマーズ (静岡市)

天候に左右されず周年栽培を行える環境を生かし、独自の出荷基準と糖度基準を設けた高糖度トマト『アメーラトマト』として商品化し、ブランド化により安定生産を実現しました。

<取組内容>

- 新設した直営福祉農場で障害者を3名直接雇用し、福祉事業所(10か所)へ作業を一部委託するほか、幼稚園と連携した食育活動や、特別支援学校からの職場実習の受け入れも行っています。
- 今後も雇用した障害者が定着できる支援体制となっていくよう、福祉事業所との連携を強化し、障害者とともに企業としての成長を目指します。





静岡名物 安倍川もち・からみもち

一口大にした餅に、きな粉と砂糖、こしあんをまぶした安倍川もち。
かの家康公が命名したとの説も。東海道中膝栗毛にも「五文どり」
として登場しています。

からみもちは、湯に落とした餅をわさび醤油でいただきます。

※季刊誌読者アンケートを同封しておりますので、みなさまからのご意見・ご要望をお寄せください。

関東農政局 静岡県拠点

〒420-8618 静岡市葵区東草深町7番18号

【地方参事官室】	054-246-6121
【経営所得安定対策等担当】	054-200-5500
【消費・安全チーム】	054-246-6959
【統計チーム】（経営・構造）	054-246-0612
（生産流通）	054-246-6123

JR静岡駅より約1.8km（徒歩約25分）

バス：JR静岡駅北口10番のりば

県立総合病院方面「アイセル21」下車目の前

